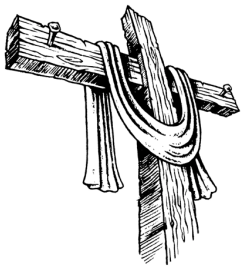


裸でなくなった私たち (私たちに与えられた救いと聖化⑤)

創世記 3章1～19節



神によって「神のかたち」に創造された人間でしたが、神のことばを拒んで自分が神に代わって善悪を決めるようになった時、人間は造られた目的から外れた生き方をするようになりました。その状態を「罪」と言います。

人間が罪を犯す前の姿を、聖書は「人とその妻はふたりとも裸であったが、恥ずかしいとは思わなかった」と記しています。裸というのは、ただ服を着ていないということだけではありません。

① 自分で善悪を決めようになった

“すると、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。それを食べるそのとき、目が開かれて、あなたがたが神のようになって善悪を知る者となることを、神は知っているのです。」” 4-5

② 神の前に裸でなくなった

“そのとき、人とその妻はふたりとも裸であったが、恥ずかしいとは思わなかった。” 2:25

“こうして、ふたりの目は開かれ、自分たちが裸であることを知った。そこで彼らは、いちじくの葉をつづり合わせて、自分たちのために腰の覆いを作った。” 7

“そよ風の吹くころ、彼らは、神である主が園を歩き回られる音を聞いた。それで人とその妻は、神である主の御顔を避けて、園の木の間に身を隠した。神である主は、人に呼びかけ、彼に言われた。「あなたはどこにいるのか。」彼は言った。「私は、あなたの足音を園の中で聞いたので、自分が裸であることを恐れて、身を隠しています。」” 8-

“主は言われた。「あなたが裸であることを、だれがあなたに告げたのか。あなたは、食べてはならない、とわたしが命じた木から食べたのか。」人は言った。「私のそばにいたようにあなたが与えてくださったこの女が、あの木から取って私にくれたので、私は食べたのです。」神である主は女に言われた。「あなたは何ということをしたのか。」女は言った。「蛇が私を惑わしたのです。それで私は食べました。」” 11-

③ 神はあきらめない

“神である主は蛇に言われた。「…わたしは敵意を、おまえと女の間に、おまえの子孫と女の子孫の間に置く。彼はおまえの頭を打ち、おまえは彼のかかとを打つ。」” 15

“神である主は、アダムとその妻のために、皮の衣を作って彼らに着せられた。” 21

<考えてみましょう>

- 自分が善悪を決めることによって生まれる恥や劣等感というようなことについて、今日のメッセージに照らして考えてみましょう。